



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二五二号）

芒種 ぼうしゅ

六月五日

音無山大江寺

先日、船で二見浦に出ました。海上から眺めると青葉茂る音無山おとなしやまに存在感がありました。乗せてもらった地元、江地区えの漁船には、この音無山にある大江寺たいこうじの安全祈願の旗がはためいています。漁師さんに尋ねてみると、

「大江寺さんのと、青峰さんあおのみね（鳥羽の青峰山正福寺）の旗を付けとる」。沿岸で漁業をする人々にとって、海辺にそびえる音無山に建つ大江寺は信仰の対象であったのです。そこで、久しぶりに音無山の大江寺へ参りました。長い石段を上ると、観音堂が建ちます。寺伝では、聖武天皇しやうむの代、僧侶の行基ぎょうきが伊勢神宮参拝の折、天照大神あまてらすおほみかみの夢告むこくによって創建したとされます。

本尊の木造千手観音坐像は、拝観は叶いませんでしたが、鎌倉時代の作で国重文指定。頭部には興玉神おきたまのかみのご神体が納められ、内宮一ノ禰宜ねぎの荒木田成長あらきだながが寄進したと伝わります。古文書にはこの観音も天照大神のお告げにより行基ぎょうきが刻み、二見浦に上がった閻浮檀金えんぶだんごん（金）の像（興玉神）を観音の御頭みくしに作り込めたとあります。天照大神と行基、神仏習合の歴史を色濃く残すことに驚きました。

また、大江寺は内宮前の宇治の町とも関わりが深かったのです。観音堂中央ちゆうに置かれた護摩壇ごまだんは宇治会合所うじかいごうしょ年寄家の橘大夫たちゅう、弘法大師像は同じく年寄家の梅谷大夫の母親が寄進するなど、貞享三年（一六八六）に落雷で全焼した後の再建に取り組んでいました。じつは明治初年まで宇治会合所が寺を直接支配していた経緯があるのです。

現在は伊勢西国三十三所第一霊場として信仰を集める大江寺。その御詠歌には古くからの信仰が詠み込まれていました。立石たていしは夫婦岩の古い呼び方です。

江村えむらなる仏の誓い深き海 二見ヶ浦に見ゆる立石

文 千種清美

